


グループホーム 白梅の里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		もっと簡単に誰にもわかりやすいものにかえたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		7月に初めて保育所より訪問があり、今までにない表情(喜び)がみられた。秋には運動会に招待されている。今後は他の分野での交流も増やしていきたい。

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の道路愛護、神社の掃除等に参加させてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回できていなかった項目を話し合い、改善できるように意見を聞き、取り入れている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時には現在の状況報告を行い、今後取り組んでいきたい事を話し合っている。サービスの向上につながる意見は、職員で再検討している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のときのみ、話し合いをしている。		現在は運営推進会議のときのみ、市町村担当者と話し合いを行っている。今後、定期的にこちらから町担当者を訪問する機会をつくりたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ研修は以前行ったが、本年度は行っていない。		現在は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に該当する利用者はいない。今後は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもうけたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービスを提供する上で、利用者の意向に添うように対応できているか、思わぬところで虐待につながっていないか、職員でよく話し合っている。		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をつくりたい。

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり解約をする際は、必ず家族への訪問を行い、説明をした上で家族の意向を確認している。お互い納得できたら契約・解約の手続きを行うようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>サービスを提供する上で、本人の意見・不満・苦情を聞くように対応している。毎月、介護相談員に訪問して頂き、利用者の意見等伺ってもらうようにしている。</p>		<p>今後、ゆっくり話しのできる時間をつくりたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に身元保証人に現在の状況報告を書面で送っている。また、白梅新聞等も送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の案内を家族に送り、その時に意見を伺う時間を設けている。</p>		<p>会議にまだ参加していない家族もいるので、白梅新聞で呼びかけたり、面会時に声かけをしたりして更なる向上に努めたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>30分程度個人面談を行い、意見や提案を聞き、できるものは反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員同士お互いに協力しながら勤務の調整ができています。緊急時・外出時には時間外勤務・ボランティアで対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は前もって運営者と充分話し合えるような機会を設けるようにしており、最小限におさえている。また、異動の場合は前もって利用者に連絡し、お互いに顔合わせするようにしている。</p>		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	性別や年齢等を理由に排除はしていない。また、法人で人事考課制度を取り入れ、能力を發揮できるようにしている。非常勤職員に対しては管理者が個人面談を行い、自己実現できるようにサポートしている。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	法人で園内研修を行い、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	人事考課制度を取り入れ、職員のレベルに応じた研修を開いている。		非常勤職員は園外研修を受けた者もいるが、全く受けていない者もいるため、皆が園外研修を受けられるようにする。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域での交流する機会はあるが参加していない。		今のところ参加していないが、同業者と交流することにより、サービスの質が向上するとは考えていない。現段階では、地域との交流に重点を置いていきたい。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員への個人面談を行うようになっている。		外部へのカウンセリングの依頼や精神科医との連携等を検討していく。

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を取り入れている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があってから、現在生活している状況を把握するため、必ず訪問している。その時に本人の意向を確認し、どのようなニーズがあるか把握している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時の訪問により、家族の意向やニーズを把握している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援センター職員と共に訪問し、本人にとって最適なサービスは何かを充分検討している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイの利用ができることを説明し、本人・家族の同意があれば、ショートステイからの利用をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の行事(花火大会等)と一緒に参加することにより、共通の話題を持ち楽しく生活できるように努めている。		できる限り、ゆっくと共に過ごす時間を持つように努力する。

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事にできるだけ参加してもらえるように連絡し、一緒に支えていく関係を築けるよう努力している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係はさまざまな事情があり、その内容についてある程度までの理解はしているが、必要のないところまでは聞かないようにしている。		本人の精神的な安定につながるようなことに対しては相談しているが、それ以外に対してはあまり立ち入らないようにしている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて友人のところまで訪問に行ったり、昔利用していた散髪屋や病院に連れて行く。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間で相性もあり、関係の悪い場合はできるだけ職員が間にはいるようにしている。気の合う利用者同士には見守りを行っているが、トラブルになったり、孤立している利用者には支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在契約終了時に継続的な関わりを必要とする利用者や家族はいない。入院中の方に対しては、定期的に見舞い、医師や家族の方と今後について話し合う機会を設けている。		必要があれば契約終了後も協力していくように対応したい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を把握するように努めている。また、サービス提供に関しては、本人本位の対応がどこまでできるか充分検討している。		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活時の担当ケアマネジャーと連携を計り、必要な生活歴等の把握に努めている。また、家族の面会時等機会の得られるときに尋ねるようにしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の生活状況は、ケース記録に残すようにし、必要に応じて職員で話し合い、状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族とは具体的な対応について話し合いを行い、計画を作成しているが、他の関係者との話し合いがあまり行われていない。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行っており、状況の変化に応じて、本人・家族と話し合い、現状に即した計画を作成、対応している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人の状態はケース記録に記入し、状態に応じた対応を行っている。また、介護計画の見直し時に参考になっている。		
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かした柔軟な支援までできていない。		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現状では、警察の挨拶訪問はあったが、他の機関は活用していない。		今後は今以上に外部の方の協力が得られるように機会を設け支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ他のサービスを利用することはなく、そのための支援はできていない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの話し合いはあまりできていない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する前からのかかりつけ医に受診するようにしている。そのため事業所と主治医との連携は行えている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	まず、かかりつけ医の指示に従い、必要があれば認知症の専門医を紹介していただき、通院治療している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が2名おり、健康管理を行っている。		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院に関しては、地域の病院との連携が行えている。また、入院中はできる限りお見舞いし、言葉かけをしたり、病院関係者から情報をもらっている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合は、同法人内の特養やかかりつけ医・家族等と今後の方針について充分話し合いを行っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期の対応は当ホームでは難しいため、チームとして話し合い、適切な対応ができるよう検討している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>必要な情報交換を行い、すみやかに対応できるよう努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。また、園内研修で守秘義務・個人情報保護法等学んでいる。</p>		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事への参加、また行事の内容等を利用者に選択してもらうような対応をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに沿って生活が送れるよう努めており、ある程度はできている。		基本的な生活スケジュールはあるが、それ以外は自由に過ごしてもらっている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ショッピングに行き好きな洋服を選んだり、美容室も本人の希望する店に行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けは、利用者の状態を考慮しながら、一緒にやってみようという気があるときに声かけをしている。自主的に協力してくれる利用者もいる。		食事内容は個々に応じ、流動食・きざみ食などでも対応している。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在酒・たばこを希望する利用者はいない。おやつは10時と3時に用意し、本人の状態にあわせて提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを記録し、ポータブルトイレを使用したりして、できるだけ気持ちよく排泄できるような対応をしている。		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴時間は毎日午後と決めているが、本人の希望に応じて入浴できる。また、時間を問わず排便失敗したとき等はシャワー浴を行っている。		なかなか入浴したまらない利用者の対応がむずかしい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	21時が就寝時間となっているが、眠れない場合は日中でも睡眠できるような対応をしている。また、休息等は自由に行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のなかで自然に役割が決まっているようである。職員が役割を割り当てることはしていない。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理は職員が行っている。ショッピングや病院受診時等、本人にお金を渡し支払ってもらいが、残金は職員が預かるようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者からどこか連れて行ってほしいとの希望が度々あり、その時はできるだけ外出するよう対応している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特定の場所へ連れて行ってほしいという希望はないが、帰宅・墓参り等の希望がある場合は家族に相談し、対応してもらっている。		

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望する利用者はいないが、電話の希望がある場合は家族に依頼し、定期的に電話をかけてもらっている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来園された馴染みの方には、いつでも遊びにきてくださいと声かけしている。また、来客時にはゆっくり過ごしていただくよう、茶菓子をだしたりしている。		
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で利用者の対応について話し合いをする場合、その内容が身体拘束につながっていないかを充分検討している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はついている居室とついていない居室があるが、利用者が鍵の管理をするようにしている。また、玄関は夜間のみ鍵をかけるようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時利用者がどこにいるのか確認を行っている。その時には必ずプライバシーを確保し、居室の訪問時は声かけ・ノックをしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要あるなしに関わらず、その物品が障害になるかならないか、その時々で充分検討し、移動や処分をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成している。		介護計画に取り入れ状態に応じた事故防止をしているが、定期的に研修も行っていきたい。

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練はしていないが、マニュアルの作成をしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導訓練を2ヶ月に1回実施している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られたときや、電話等でできるだけ自由に生活をしてほしいことを伝え、起こりうるリスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや本人の状態観察を記録し、看護職員に連絡するとともに、主治医へ報告、指示を仰ぎ対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が服薬の管理をしている。また、主治医と相談・連絡を行い、用法や容量、使用についての検討と症状の変化の確認を行なっている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護職員が主になり、便秘の対応をしている。その場合必ず主治医と相談をし、飲食物についての相談もしている。		水分摂取量の少ない利用者は、セリ茶やポカリスエット等で補ったり、おやつにヨーグルトや果物を用意したりして便秘解消に努めている。

グループホーム 白梅の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・昼・夕食後の歯磨きを行なう。また、グリーン歯科の往診により、口腔状態の確認をし、治療の必要な利用者には家族と相談し治療している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、栄養のバランスを考えながら季節にあった地元で採れたものを提供。水分に関しては、熱中症への対応を考慮し充分摂取できるよう工夫している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、家族の方の了解を得た上で予防接種をしている。また、ノロウイルスや食中毒の予防として、外出から戻ったときは必ず手洗いを行なうようにしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に新鮮な食材を提供するようにし、食中毒の予防のため、調理用具は塩素で定期的に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関から自由に出入りできるように、また、スムーズに移動できるように玄関周りの改修を行なった。また、庭を自由に散歩できるようフェンスをはり危険のないようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間で暗く感じる所は明るくなるよう照明を付け替えた。また、目で見て楽しんでいただけるよう、廊下には季節ごとの飾りつけをしている。		

グループホーム 白梅の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家を改造しているため、居間は畳をそのまま残し、仏壇を置く等して、自宅にいたときと同じ感覚を持てるよう工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家庭で使用していたものを持ってきていただくよう、家族に依頼している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気(臭い)がこもらないよう、換気を行なうこと、状況に応じて室温調整を行なうことに配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・便所等危険箇所には、手すり・滑り止め等を取り付けている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・便所等には表札をさげ、便所については矢印で示している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には自由に出入りできるようにしている。		庭にテーブル・椅子等を置き、ゆっくりくつろげる場所を提供する。

グループホーム 白梅の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 白梅の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- * 地域の方々がサービスを利用しやすいように、利用料金の設定を安くしている。
- * 民家の雰囲気大切に、和風の暮らしができる。